

新たな視点の提案

——ゴードン W. プランゲ文庫の所蔵資料を通じて

ジェンキンス 加奈

はじめに

- 1 プランゲ文庫とは
- 2 AAS で紹介した資料（鈴木貴宇報告）
- 3 AAS で紹介した資料（榎一江報告）
- 4 AAS で紹介した資料（清水剛報告）

おわりに

はじめに

筆者は、2023年3月に開催された Association for Asian Studies（以下 AAS）の学会パネル“Formations of Gendered Labor in Postwar Japan : Perspectives from Cultural Studies, Economic History, and Labor Studies” にディスカッサントとして参加するよう、パネル主催者の鈴木貴宇氏より依頼を受けた。特に、筆者が室長を務める米国メリーランド大学図書館ゴードン W. プランゲコレクション（Gordon W. Prange Collection：以下プランゲ文庫）が所蔵する資料を各報告に関連させて紹介することを求められた。

そのため、通常のディスカッサントの役割とは若干異なるアプローチを取ることにし、各パネリストに一つずつ質問を投げかけ、もしその質問・トピックが各研究プロジェクトに将来的に組み込まれた場合、プランゲ文庫からどのような資料を提供できるか、という仮定のもとに構築した。また、これは「おわりに」で触れるが、プランゲ文庫の所蔵資料の中でもこれまでの利用者が少ないと思われる資料を優先的に提示する方針とした。以下パネル内の報告順に、筆者が各パネリストに投げかけた質問（実際の報告は英語で質問。本稿では日本語訳を併記する）と、提案した資料を紹介する。なお資料の利用促進を期待して、各資料へのアクセス方法も記載する。

1 プランゲ文庫とは

まず、簡単にプランゲ文庫について紹介する。米国メリーランド州、メリーランド大学図書館に所蔵されている Gordon W. Prange Collection（プランゲ文庫）は、1945年から1952年の日本占領期間中最初の4年間（1945年から1949年）に発行された日本の出版物を所蔵し、メリーランド大

学図書館の Special Collections and University Archives に属する。1945 年から 1949 年の間に日本で発行されたすべての出版物は、連合国最高司令官総司令部（Supreme Commander for the Allied Powers - SCAP）内の民間検閲局（Civil Censorship Detachment - CCD）によって検閲された。メリーランド大学の歴史学教授であったゴードン W. プランゲ博士は、占領期当時 SCAP の歴史部門にて主任歴史家として勤務しており、CCD が検閲目的で集めた資料の歴史的重要性を認識していた。CCD が 1949 年 11 月に終了する際、プランゲ博士は SCAP およびメリーランド大学に掛け合い、これらの資料をメリーランド大学図書館に収蔵するために尽力した。このコレクションは 1979 年にプランゲ博士の名前を冠し、現在はメリーランド大学カレッジパーク校のホーンベイク図書館北館に収容されている。

プランゲ文庫は、図書（約 71,000 点）、雑誌（約 14,000 点）、新聞（約 18,000 点）、報道通信写真（約 10,000 点）、地図（約 640 点）、ポスターや壁新聞（276 点）など、CCD に提出された日本の出版物で構成されている。またプランゲ文庫は、占領期に日本に滞在した人物の個人資料群の寄付も順次受け付けてコレクションを拡充させている。これらの寄贈資料群は占領者の視点を照らし出す貴重な資料である⁽¹⁾。

2 AAS で紹介した資料（鈴木貴宇報告）

During the Occupation of Japan, particularly when these cultural activities and events flourished in many workplaces, would you say that they played a role in reshaping or changing the social expectations for both working men and women? Were there any differences based on the gender in the level of their participation or the type of activities?

（日本語訳）多くの職場で文化サークル活動やイベントが盛んに行われた占領期に、これらの活動は働く男性及び女性に対する社会からの期待を再構築したり、変化させたりする役割を果たしたと考えますか。また、参加の度合いや活動の種類に性別による違いはありましたか。

まず報道通信写真群から、共同通信社撮影の「勤労者ダンスホール」という看板の下に集まる若者たちの写真を提示した（縦 8 センチ、横 12 センチ）。白シャツもしくは背広姿で鞆を片手に持つ、いわゆる「サラリーマン」の典型的な服装をした男性たちが 20 名ほど、ダンスホールの開場を入口で待っている様子が写されている（Prange Call No : Kyodo Tsushin News Agency Photographs, K-4598）。

当文庫が所蔵する報道通信写真群については、記事の標題と日時のみを簡易リストをウェブサイトで公開している⁽²⁾。しかし図書館のオンラインカタログ上での検索機能が存在しないことや記事本文は公開していないことなどから、報道通信写真群の利用はあまり進んでいないのが現状である。

(1) 詳しくはプランゲ文庫 Web サイトを参照されたい。https://www.lib.umd.edu/collections/special/japan (Accessed October 3, 2024) .

(2) Web サイトの下段 “Photographs” をクリックすると PDF ファイルを 3 点ダウンロードできる。https://www.lib.umd.edu/collections/special/japan/holdings (Accessed October 2, 2024)

り、さらなる研究が待たれる⁽³⁾。

次に第一生命保険相互会社、第一生命内勤職員組合が主催した「第六回文化祭」（1949年6月18日開催）のプログラムを紹介した。サイズは縦19センチ、横は27センチで表裏両面に印刷されて2つ折りにされている。文化祭の第一部は演劇部による「人形劇 はだかの王様 五景」や音楽部の発表、第二部は謡曲と仕舞、第三部は映画「森の騒動」と「酔いどれ天使」の上映が予定されており、出し物が土曜日の午後1時から午後8時までびっしりと続く多彩な構成であった（Prange Call No. : AC-1036）。

この文化祭プログラムは、プランゲ文庫が所蔵するエフェメラ資料群（図書ではなく、いわゆる一枚ものの資料群）に含まれている。エフェメラ資料群はすでにデジタル化が完了しており、国立国会図書館のデジタルコレクションにて閲覧可能である⁽⁴⁾。プランゲ文庫は元来アーカイブスの整理方法を採用せず、米国の学術図書館が一般的に用いる図書整理方法を採用してきた。この図書整理方法の利点は、米国ほとんどの学術図書館が採用しているオンラインカタログで検索できる点にある。しかしエフェメラ資料群に関しては、オンラインカタログ化を検討する前にデジタル化が先行したという特殊な事情があった。エフェメラ資料群はタイトルや著者名等基本的な書誌情報の採録も難しく、結果として利用者による検索や発見も困難になることも多い。したがって今後エフェメラ資料群に関しては、デジタル画像に対する光学文字認識機能（Optical Character Recognition - OCR）の導入が検索機能を大幅に向上させるだろう。

最後に、ポスター・壁新聞コレクションから兵庫県港湾労働組合同盟が作成し、1947年8月7日に発行されたポスターを紹介した。これは「貿易祭記念野球大会」のお知らせポスターで、実物には「かべ新聞」と表記されている。ポスターには1947年8月19日から同月23日にかけて神戸中学校にて野球大会が開催される旨が記されており、賞品として「酒一本」と「地下足袋」が提供されるとある。当文庫は兵庫県港湾労働組合が作成したポスター・壁新聞を計22枚所蔵している⁽⁵⁾。なおAASでの報告では紹介しなかったが、この記念野球大会の結果を報告する壁新聞も同年9月12日付で発行されている⁽⁶⁾。

プランゲ文庫は計276点のポスター・壁新聞を所蔵する。なお見た目や機能からポスターの役割が強いものでも、実物に「かべ新聞」と記載されているものは「壁新聞」カテゴリーに含まれる。これら276点はすべてデジタル化が完了しており、プランゲ文庫のウェブサイトから自由に閲覧可

(3) 報道写真群については、鈴木貴宇著『〈サラリーマン〉の文化史——あるいは「家族」と「安定」の近現代史』（2022年）の第四章が詳しいので参照されたい。

(4) プランゲ文庫は2005年より、国立国会図書館との共同事業として図書のデジタル化に取り組んでいる。国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp/>）にて「プランゲ文庫」アイコンをクリックすると、プランゲ文庫の資料（2024年10月時点で、図書約25,000点、雑誌約6,000点、検閲新聞ゲラ約15,000点が、オンライン、送信サービス、もしくは国立国会図書館館内限定で閲覧できる。エフェメラ資料群は「図書」に含まれる。「第六回文化祭」のURLは<https://dl.ndl.go.jp/pid/8323356>（Accessed October 2, 2024）

(5) 例として、1947年7月30日付のかべ新聞「ご存知ですか？ 同盟のかべ新聞」などがある。<https://hdl.handle.net/1903.1/68062>（Accessed October 2, 2024）

(6) 兵庫県港湾労働組合「貿易祭記念野球大会 三輪組優勝す」1947年 <https://hdl.handle.net/1903.1/68145>（Accessed October 1, 2024）

能である⁽⁷⁾。

鈴木氏の報告では、占領期末期から1960年代にかけて「普通で」「平均的な」男性労働者像である「サラリーマン」がいかにして確立されていったのか、そしてその過程において労働組合主催の文化活動が果たした役割について論じられた。男性は「サラリーマン」として、女性は同じ労働者として社会に出ながらも最終的には「サラリーマンの妻」を目指し家庭に入るという位置づけがなされていた。このように男女間で社会的目標が大きく異なる中で、両者の興味や期待が交差する場として文化活動サークルが果たした役割に注目した点は非常に興味深い。加藤千香子（2022）は、1950年代の職場におけるサークル活動にはそこに向かった個々人の自発性・主体性が深くかかわっており、重視されたのは個人と個人のつながりであった、と述べている⁽⁸⁾。そこからヒントを得て、男性も女性も自主的に参加したと思われる文化活動の軌跡を示す資料として、文化祭のプログラムや野球大会のポスターを提示した。なお共同通信社の写真については、職場での文化活動というよりも退勤後の個々の趣味活動を捉えたものであった。

3 AASで紹介した資料（榎一江報告）

Was the criticism from the Occupation Forces largely due to negative images toward dormitories as a “closed or gated community”? If so, what was the images that the women living in the dormitories were “broadcasting” to their families back home as well as to their local communities around the dormitories? Did they reinforce or counter-attack the negative connotations?

（日本語訳）占領軍からの批判は、主に寄宿舎を「閉鎖的なコミュニティ」として捉えたネガティブなイメージに起因していたのだろうか。もしそうであったならば、寄宿舎に住む女性たちは、実家や寄宿舎周辺の地域社会に対して、どのようなイメージを「発信」していたのだろうか。彼女たちは、そのネガティブな印象を強化していたのか、それとも反論していたのだろうか。

まず紙芝居『ばら寮のできごと』を紹介した（縦27センチ、横7.5センチ、全20コマ）。これはブランゲ文庫が所蔵する寄贈資料群の一つであるMead Smith Karras Papersに含まれている⁽⁹⁾。Mead Smith Karrasは、1946年から1949年の間にSCAPの労働課に勤務し、労働省婦人少年局（Women's and Minor's Bureau）の新設にも深く関わった⁽¹⁰⁾。Karrasが『ばら寮のできごと』を入手した経緯について長志珠絵（2020）は、谷野せつから送られたものではないかと推測す

(7) Gordon W. Prange Posters & Wall NewspapersのWebページから閲覧できる。<https://digital.lib.umd.edu/prangeposters> (Accessed October 2, 2024)

(8) 加藤千香子「国民国家形成と〈青年〉試論——男性史研究の視点から」『国立歴史民俗博物館研究報告＝Bulletin of the National Museum of Japanese History』2022年（第235集）、523頁、530頁

(9) Mead Smith Karras Papersに関しては、メリーランド大学図書館 Archival CollectionsのWebページを参照。<https://archives.lib.umd.edu/repositories/2/resources/1419> (Accessed October 1, 2024)

(10) 長志珠絵、廣川和花「ミード・スミス・カラスと婦人少年局地方職員室の女性たち」『性差の日本史：企画展示』2020年、248-249頁

る⁽¹¹⁾。

『ばら寮のできごと』は労働省婦人少年局によって制作されたもので、製糸工場の女性寄宿舎を舞台にした内容である。物語は、休日に外出した2人が門限になっても寄宿舎に戻らず、そのために自矯委員会が開かれる、という展開である。寄宿舎および工場内で自分たちの屈託のない意見が言えない状況が常態化していることに対し、寄宿舎自治会の委員長が警鐘を鳴らすという筋書きだ。なお Karras Papers には計3組の紙芝居が含まれている。そのうち『ばら寮のできごと』と『おときさんと組合』は労働省婦人少年局が制作したものであり、『楽しい五郎君』は日本紙芝居協会が1949年3月に発行したものである⁽¹²⁾。

当文庫所蔵の寄贈資料群すべてに共通する課題として、図書や雑誌・新聞などの所蔵資料とは異なる検索方法が採用されているために利用者が資料を見つけにくいという点がある。寄贈資料群は基本的にメリーランド大学図書館 Special Collections and University Archives が管理するアーカイブス用のウェブサイトに掲載されている。このウェブサイトは ArchivesSpace という情報管理システムを使って作成されており、世界中の学術機関アーカイブスで広く利用されている⁽¹³⁾。

次に三重県度会郡二見町の東洋紡績二見工場の女子寄宿舎自治会が発行した『寄宿舎便り』を「寄宿舎に住んでいた女性たちが発信していた情報」の一例として紹介した。これは「8月第2号」とあるが出版年は不明である。プランゲ文庫はこの号のみ所蔵している。サイズは縦18.5センチ、横55センチで表裏刷りの1枚もの。資料形態としては上述したエフェメラ資料群に入るべきだったのではないかと個人的には感じるが、プランゲ文庫ではすでに新聞として整理されている(Prange Call No. : NK-1257)。

冒頭の「御挨拶」には「…四月に寄宿舎便りを発刊致しまして、その後隔月にでも発刊を続けたく思いましたものゝ、仕事に追われ勝ちで、やっとさゝやかながらも第二号をお送りする運びになりました。」と記されている。文化部が主催した講話や水泳大会など催しの感想を各寮の女性たちが述べており、さらに短歌や詩の投稿も掲載されている。

この『寄宿舎便り』のユニークな点は、裏面の末尾に「通信欄」が設けられており、縦書き便せんのような白紙スペースが17行分用意されていることである。つまり寄宿舎に住む女性たちが、寄宿舎自治会からの一般的な情報とともに自身の近況などを自由に書き込み、家族や友人に送ることができたという便利な仕掛けであった。短歌や詩は彼女たちの自己表現の場であったと考えられ、また寄宿舎や工場で行われたイベントや文化活動を外部に伝えることは彼女たち自身にとっても、雇用主にとっても重要だったと考えられる。

パネルでは紹介できなかったが、例えば『旬刊婦人繊維新聞』(名古屋：東海北陸繊維勤労文化

(11) 長志珠絵「コラム 紙芝居の力」『性差の日本史：企画展示』2020年、252頁。なお『おときさんと組合』に関しては、谷野せつ自身がそのことに言及した Karras 宛の手紙が Karras Papers に含まれている。

(12) 女性就業支援センターホールが Web サイトにて『ばら寮のできごと』および『おときさんと組合』を全文公開している。この Web サイトによると『ばら寮のできごと』は1950年作成、『おときさんと組合』は1949年作成。紙芝居本体には作成年度の記載はない。https://joseishugyo.mhlw.go.jp/history/kashi_list_gentou.html (Accessed October 1, 2024)

(13) ArchivesSpace は、ハーバード大学、アイオワ大学、ミシガン大学など、500を超える機関で利用されている図書館・アーカイブス向けの情報管理システムである。<https://archivesspace.org/> (Accessed October 1, 2024)

協会発行)の第五号(1948年11月発行)も第一面に「楽しいお休み」と題して複数の女子寄宿寮で行われた運動会や、女子寮の音楽室でピアノを愉しむ女性たちの様子を大きな写真とともに取り上げている。同紙第六号(1948年12月発行)には「さながら家族工場 兄弟姉妹で愉快地働く中部紡織株式會社」という記事も掲載されており、寄宿舎や工場における生活充実度のアピールに忙しい⁽¹⁴⁾。

プランゲ文庫に所蔵される新聞および雑誌はすべてマイクロフィルム化されており、メリーランド大学以外にもマイクロフィルムを所蔵する機関が複数存在するため、利用頻度の高い資料群である⁽¹⁵⁾。雑誌に関しては外部機関が運営する有料データベースを通じて記事タイトルで検索することが可能であるが、新聞記事の検索は限定的にしかできない⁽¹⁶⁾。そのためしばしば新聞紙名を指定して網羅的に記事を探すしかなく、雑誌に比べて検索が非常に困難である。しかし『寄宿舎便り』のように、後世に残りづらかったのではと考えられる資料なども新聞コレクションの中にも含まれており、今後プランゲ文庫が所蔵する新聞を活用した研究の一層の進展を期待する。

最後に、日本民主主義文化連盟発行雑誌『働く婦人』再刊第22号(1949年2月1日発行)に掲載された「寄宿舎の娘たちの座談会——鎖の切れぬ生活から」の冒頭2ページを紹介した(Prange Call No.: H-276)。これは前述の『寄宿舎便り』とは異なり、寄宿舎生活や工場に対する不満を女性たちが座談会形式で述べた内容である。出席者は敷島紡績城北工場から計13名、鐘ヶ淵紡績淀川工場から計15名(全員I子やM子などの仮名)であり、座談会は電産大阪府支部会議室(宇治電ビル四階)において開催されたとある。

本座談会では、寄宿舎での食事、娯楽、恋愛、就職過程、など、様々なテーマが取り上げられ、6ページにわたり座談会の内容が文字起こしをしたかのような詳細な形で記録されている。例えば寄宿舎での食事について尋ねられた際には、一人の参加者が以下のように答えている。

あんなのおみそ汁じゃないわ、とてもうすいのよネエ(と顔を見合せて大笑い)

他にも乾パンに虫が入っていたことや、腐敗したような朝食が提供されたことなど、食事に関する不満が2ページを占める。座談会の最後は以下のように締めくくられている。

司會 今きいたような不平や不満は、みんなが持っているんじゃないんですか

T子 みんな盛んにぶつぶついつているんですが、それを會社にいつて行くところまで行かないんです

D子 いいに行つたって始まらないからだわ、にらまれるだけなんだから

Z子 みんなの不平、不満を代表して會社側にいいに行くと、すぐ「あれは共産黨だ」と上からおさえつけてくるんです

(14) 『婦人繊維新聞』(1948)第五号、第六号(東海北陸繊維勤労文化協会)

(15) プランゲ文庫のWebサイトで、新聞と雑誌のマイクロフィルムを所蔵する機関を掲載している。<https://www.lib.umd.edu/collections/special/japan/holdings> (Accessed October 1, 2024)

(16) 有料データベース「20世紀メディア情報データベース(<http://20thdb.jp/>)」と「雑誌記事索引集成データベース ざっさくプラス(<http://info.zassaku-plus.com/>)」がある。(Accessed October 1, 2024)

司會 じゃそんな不平不満を遠慮なしに話し合える會をみなさんでつくつてはどうでしょうか。そして民主的な雑誌や新聞にどんどん投稿して、世間の人に知らせるようにしようではありませんか
一同 それがいいわ（全員賛成の聲しきり）

後日談として、この集りは「女工さんたち自身明るい職場にするため、組織的にたたか」う目的で、翌々日に白百合會という名前で紡績十社の女性たちが発足した、とある。

この座談会記事は参加者名が匿名化されていることもあり、記事内容の信憑性には疑問が残る。加えて、司會を務めた増山太助（『働く婦人』の編集兼発行人）の狙いが記事に大きく反映している可能性も否定できない。『占領期女性雑誌事典』によれば、日本民主主義文化連盟発行の『働く婦人』は、元々1931年に日本プロレタリア文化連盟の婦人協議会の機関誌として発行されていた『働く婦人』の復刊である。日本プロレタリア文化連盟の『働く婦人』は「働く女性の権利確立を標榜し、科学的な知識をもって社会を理解し、かつ働く女性に対して生活の喜びと慰めを与えることを編集の基本方針に揚げていた」、そして日本民主主義文化連盟の『働く婦人』もこの理念を継承していた⁽¹⁷⁾。つまり寄宿舎で働く女性たちが持つ不満に対して『働く婦人』は座談会という場を提供し、同誌の編集理念に沿った形で記事が構成された可能性も高く、記事の解釈は慎重に行う必要がある。

榎氏の報告は、日本の寄宿舎制度がSCAPから問題視されていたにもかかわらず雇用側からは重宝され、雇用される側からも一定の支持・納得を得ていたように見える点について論じていた。寄宿舎の民主主義化が求められる中、実際にどのような寄宿舎生活が営まれていたのか、そして寄宿舎に住んでいた女性たちがいずれ「結婚退職」「サラリーマンの妻」「良妻賢母」となることが期待された労働社会の中で、寄宿舎が果たした役割について詳細に論じられた。筆者はSCAPが寄宿舎制度に対して懐疑的な見解を示していたことに注目し、このようなネガティブな見方が生じた背景について興味を持った。寄宿舎を外部から見る視点はどのようなものであったのか、またそれに相対して、寄宿舎に住む女性たちがどのような情報を外部に「発信」していたのかを窺えるような資料を提示した。

4 AASで紹介した資料（清水剛報告）

In the mutual “harmonious” relationship between employers and employees to pursue and maintain stability, what were the most significant factors/motivations on both sides, and how these motivations (in) directly affect a gradual change of the images of women as “equal-rights labor” to “housewife” as well as to “good wife, wise mother”（良妻賢母）？

（日本語訳）雇用者と被雇用者が安定を追求し維持するために築いた「調和的」関係において、両者にとって最も重要な要因や動機は何であったのか。また、これらの動機がどのように直接的もしくは間接的に女性が「平等権を持つ労働者」から「主婦」「良妻賢母」へと移行していく過程に影響を与えた

(17) 吉田健二編（2003）『占領期女性雑誌事典——解題目次総索引 第8巻「働く婦人」～「婦女界」』金沢文圃閣、12頁

のだろうか。

「良妻賢母」への第一歩（そして絶対必要とされたであろう段階）として結婚が位置づけられていたことから、結婚に関する資料の検討を試みた。まずサイトホーム社（大阪市）が出版した『結婚読物新聞』を取り上げた（Prange Call No. : NK-0883）。なおパネルには時間的制約により含めることができなかったが、他にも当文庫が所蔵する相似資料として、西日本芸文社（福岡市）発行の『結婚雑誌月刊青春臨時ニュース』や希望社（東京都）発行の『結婚新聞』も挙げられる。

1949年2月1日発行の『結婚読物新聞』第一号の第一面は「楽園は近きにあり 尋ねよさらば見出さん」との見出しが揚げられており、本文は「幸福な結婚をするには相手を広く探すこと 申すまでもなく、結婚は人生の重大事であります」の一文から始まる。その他「僕の理想の女性」「私の理想の男性」といった投稿記事や「愛のさゝやき方」を指南する記事も掲載されている。パネルでは第四面に掲載された「人生完成の道へ 結婚は慎重に 幸福の花園へ」との見出しの記事も提示した。『結婚読物新聞』『結婚雑誌月刊青春臨時ニュース』『結婚新聞』のいずれも、本質的には結婚相手を探す求人新聞であり、二・三面は交際相手を求める「求人広告」で埋め尽くされている。例えば、

嫁度 二二初婚高女卒會計事務員温和健康良丈高しダンス映画音楽に興味あり先様学職不問生活力ある美男子の方を望む御手紙下さい御返事します

などとあり縦7センチ、横わずか1.8センチのスペースに4行びっしりと男女個人が広告を出している。

次にロマンス社発行の女性雑誌『婦人世界』1949年11月号に掲載された折り込み記事「良妻の秘訣十カ條」を紹介した（Prange Call No. : F-83）。この記事は氏家壽子氏（日本女子大学教授）の執筆によるもので、挿絵5枚と共に良妻としての「心構え」を以下のように記している。

- 1 健康のつややかさ
- 2 たくまざるたしなみ
- 3 光る一技
- 4 三上手（料理上手、裁縫上手、働らき上手）
- 5 明るく強い経済力
- 6 ユーモアのある人間味
- 7 失わぬ若さ初々しさ
- 8 たつた一人の恋人であり親友である
- 9 つとめてみがく社会性
- 10 深く祈りつゝ、いつも夢あれ

パネル最後は著者出版社共に不明の『夫婦和合之暦』の1ページで締めくくった。これは和綴じ本で縦13センチという小さいポケットブックで、中身は子どもを持つ夫婦の漫画風の絵と詩である。出版は1948年と推測される（Prange Call No. : HQ-0161）。紹介したページは、仕事帰りだと

見られる男性が仕事着のまま、蚊帳の中で寝ている子どもを覗き込んでいる絵で、ページ上部に、

社日

家に帰るももどかしく我児の寝顔を覗きみるも親心

すこやかに伸びゆく子供こそ家庭平和のかすがひ

とある。類似資料として鳴海碧子著『結婚建設』（時代社発行、1947年）もあった（Prange Call No. : HQ-0168）。

清水氏の報告は、日本企業と労働者の「共同体」的環境、およびその相互関係の変容過程について考察したものである。特に戦後における男女分業の再創造と、その維持のためのメカニズムについて検討が行われた。戦後の労働シーンにおいて、雇用者と労働者が互いに安定を求めて協力体制を積極的に形成した背景にはどのような要因があったのか。パネルでは、特に女性が「労働者」から「良妻賢母」へと移行する過程において、出版物にみる社会的圧力や影響が存在した可能性を示唆する資料を提示した。

おわりに

今回のパネルにディスカッサントとして参加したことを通じて、プランゲ文庫の資料、特にあまり知られていない資料群を提案できたのではないかと考えている。プランゲ文庫の資料は、検索やアクセスが比較的整っている一部の図書と雑誌に利用者の目が向きがちだと体感している。資料群の整理が進むことで研究者のアクセスが増加し研究成果が発表されることにより、ますますその分野や資料群の整理を促進する図書館内での原動力となる。しかしその影で、日の当たらない資料はますます使われず研究も進展せず、図書館内で整理を担当する人材や時間を割く正当化が困難となる。結果として所謂“Hidden Collection”として長年書架に鎮座し続けることになる資料群が起こりうる。これらの資料群の研究資料としての価値を広範囲に積極的に伝えていくことも、プランゲ文庫の今後の重要な役割であると考えている。

パネルでは“Notable Japanese Collections in North America Dashboard”というWebサイトも取り上げた（画像1）。このウェブサイトは主に北米の日本研究司書を中心に運営されている北米日本研究資料調整協議会（North American Coordinating Council on Japanese Library Resources - NCC）のメンバー数人によって作成されたものであり、元となったデータはNCCのCooperative Collection Development Working Groupが収集したものである。このウェブサイトは北米に点在する様々な日本関連資料を地図上で可視化し、資料内容やデジタル化の有無などに基づいて検索が可能である。2024年9月時点で、60の機関から計251のコレクションが登録されている⁽¹⁸⁾。

各学術機関が自主的に登録する仕組みを取っているため決して網羅的なツールとは言えないが、物理的に日本を離れた日本関連資料がどの北米学術機関で保存され公開されているのかを垣間見る

(18) Notable Japanese Collections in North America. bit.ly/NJCDashboard (Accessed October 8, 2024) .



【画像 1】“Notable Japanese Collections in North America Dashboard” Web サイト

ことができる画期的なウェブサイトである。なおブランゲ文庫は現時点で 21 の資料群を登録しており、今後も寄贈資料群を受け入れる度に登録申請を行う予定である。この“Notable Japanese Collections in North America Dashboard”に言及したのも、上述のように北米各地には Hidden Collection となりがねない日本関連資料群が多数あるという事実と、その状況を打破しようとする在米日本研究司書たちの熱意を示したかったからである。

最後になったが、法政大学大原社会問題研究所とブランゲ文庫をつなぎ、資料紹介の場を提供してくださった鈴木貴宇氏に心より感謝申し上げる。Ranganathan (1931) が提案した図書館大原則に“Books are for use”⁽¹⁹⁾があるが、まさにその通りであり、資料は利用者に自由に検索され、認知され、利用されてこそだと考えている。

(じえんきんす・かな 米国メリーランド大学図書館ゴードン W. ブランゲ文庫室長／東アジア研究司書)

【参考文献】

- 長志珠絵 (2020) 「コラム 紙芝居の力」国立歴史民俗博物館編『性差の日本史——企画展示』歴史民俗博物館振興会, 252 頁
- 長志珠絵, 廣川和花 (2020) 「ミード・スミス・カラスと婦人少年局地方職員室の女性たち」国立歴史民俗博物館編『性差の日本史——企画展示』歴史民俗博物館振興会, 248-249 頁
- 加藤千香子 (2022) 「国民国家形成と〈青年〉試論——男性史研究の視点から」『国立歴史民俗博物館研究報告』235 集, 513-532 頁
- 鈴木貴宇 (2022) 『〈サラリーマン〉の文化史——あるいは「家族」と「安定」の近現代史』青弓社
- 吉田健二編 (2003) 『占領期女性雑誌事典——解題目次総索引 第 8 巻「働く婦人」～「婦女界」』金沢文圃閣
- Ranganathan, S.R. (1931) *The Five Laws of Library Science*. Asia Pub. House.

(19) Ranganathan, S. R. (1931). *The Five Laws of Library Science*, Asia Pub. House.